

産学官連携イベントレポート

第4回産学官民コミュニティ全国大会 in おかやま(H22.9/11)

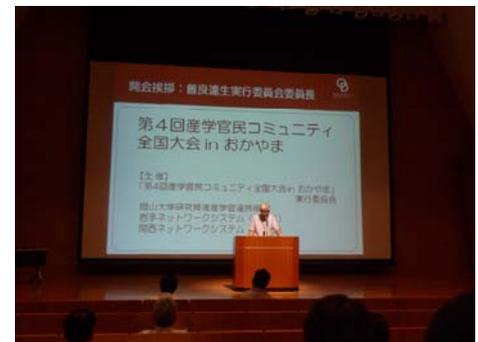
産学官民コミュニティ全国大会は、産学官民連携に取り組む全国で活動する同じ思いを持った同志が一堂に会し、業種や分野、所属や肩書き、年齢、性別、国・地域を超えて、ひとりの人間としてフラットな関係で双方向のコミュニケーションを深めることにより、さらに一層、知の創発やイノベーション創出に結びつけることを目的とした活動です。

2007年の岩手大学での開始から数えて4回目となる今回は岡山県で開催され、中国地域産学官コラボレーション会議の参加機関である岡山大学・岡山県立大学・岡山理科大学・岡山県・岡山市・(財)岡山県産業振興財団等の11機関が実行委員会を結成して運営されました。

本イベントを、コラボレーション会議の重点取り組みテーマ「新結合プラン」の取組みとして掲げる岡山大学より、当日の様子について情報を提供いただきましたので、本レポートでご紹介します。



当日は、土曜日にも関わらず、200名余りの産学官連携に関する人々が岡山大学に集まり、曾良(かつら)実行委員長(岡山大学理事・副学長)による開会挨拶で始まりました。



全体会の最初は、岡山大学長の千葉喬三氏から、「産学官連携は進展するか」とのタイトルで基調講演が行われました。

講演内で千葉学長は、現在の日本の産学官連携は、長い時間と資金をかけて体制の整備を行い、その制度面での手厚さを評価する一方、それほど連携による成果が上がっていないことについて指摘。大学側の目線から見た原因として、アイデアを検証するための設備に投じる資金不足や大学研究者の意識、若い研究者の考えが学外に出にくい大学の構造や、組織・事業・人事等、全般に対する適切な評価システ

ムの遅れなどについて問題が提起されました。



続く応援メッセージでは、文部科学省研究振興局 研究環境・産業連携課長の池田貴城(たかくに)氏と、経済産業省経済産業政策局地域経済産業グループ 地域技術課長の渋谷浩氏が発表されました。

文科省の池田氏からは、産学官連携をイノベーションの創出や大学の研究成果を社会還元する上での「手段」と位置づけ、産学官連携自体が新たなフェーズに向かう時期であると指摘。今後は大学等の自立的な取り組みや産学官連携による成果の見える化を課題として挙げ、それに対する文部科学省の施策について説明されました。



経産省の渋谷氏は、平成 22 年 6 月に決定された政府の新成長戦略をもとに、現在の日本が抱える産業構造の課題とそれに対する施策、地域経済活性化の観点から見た産学官連携への期待と、来年度予算への概算要求について説明が行われました。



全体会の最後には、全国の産学官民コミュニティの活動紹介と題し、すでに全国各地で先進的なコミュニティ活動を展開されている岩手ネットワークシステム(INS)、INSの関西支部としてスタートした関西ネットワークシステム(KNS)、やまなし産業情報交流ネットワーク(IIEN. Y)及びとちぎ未来ネットワーク(FTN)から、それぞれの活動紹介がありました。どの活動も、人と人の繋がりに重心を置いた活発な活動を展開しており、中国地域産学官コラボレーション会議の活動に多いに参考となるものでした。



岩手ネットワークシステム 佐藤氏



関西ネットワークシステム 吉田氏



山梨県商工労働部産業支援課 金子氏



とちぎ未来ネットワーク 市田氏

休憩をはさんだ後半では、2つの分科会場で延べ18件の多くの産学官民連携活動の事例紹介が行われました。なお、せっかく岡山にお越し頂いた方には、「おかやま紹介セッション」で岡山地域の産学官民に関する取組事例をお聞き頂けるように配慮しました。なお、第一会場は主として技術開発をテーマとしており、第二会場では街興しや街作りをテーマとする講演でまとめました。

(産学官民連携活動事例紹介)

<p>第一会場 中国地域の産学官民連携事例紹介</p> <p>「地域経済の発展に貢献する図書館の可能性」 小林隆志氏 鳥取県立図書館支援協力課長</p> <p>「ひろしまから世界へ！“ものづくりは、ヒトづくり・智恵づくり” ～グローバルに挑戦する地方からの取組み～」 岡本勝幸氏 ビジネススペースひろしま 総合プロデューサー</p> <p>「さんさんコンソの活動紹介」 遠藤 隆氏 中国地域産学官連携コンソーシアム産学官連携 チーフプロデューサー</p> <p>「ばらの街”ふくやま”で進める産学官民連携事例」 渡辺幸三氏 福山市産業支援コーディネーター</p>	<p>第二会場 INS, KNS の産学官民連携事例紹介</p> <p>「学生による“まいど1号”の設計開発への参加」 千葉正克氏 大阪府立大学 工学研究科 航空宇宙工学分野</p> <p>「はりま産学交流会 15年の歩み」 中安 豪氏 リサーチ・プロ・オフィス代表、はりま産学交流会広報委員長 大阪大学産学連携推進本部イノベーション創出部特任助教</p> <p>「岩手大学の最近の産学連携事例について」 中島武幸氏 岩手大学 研究交流部長</p> <p>「“四国ヒューマンカルチャー(仮称)”始動」 木村美加氏 アクオンスタジオ 人見訓嘉氏 (有)CONERI 代表 川井保宏氏 四国経済産業局企画課長</p>
--	---

(おかやま紹介セッション)

<p>第一会場</p> <p>「高性能電気自動車の産学官連携による開発」 吉田 寛氏 岡山県産業振興財団研究開発プロモーター 株式会社 SIM-Drive 技術顧問</p> <p>「緑化ブロックの開発」 且原真木氏 岡山大学資源植物研究所准教授</p> <p>「着るだけで身体の動きを支援するパワーアシストウェアの開発」 小川和徳氏 ダイヤ工業(株)開発部リーダー</p> <p>「ナカシマメディカル(株)における産学官の取組について」 藏本孝一氏 ナカシマメディカル(株) 常務取締役</p> <p>「食の安全安心を確保するレーザー応用機器の開発」 渡部 明氏 (株)光フィジクス研究所 代表取締役社長</p>	<p>第二会場</p> <p>「新色相開発により『国産ジーンズ発祥の地』児島技術活用の高度化」 眞鍋寿男氏 (有)藍布屋 代表取締役</p> <p>「インターシップで飛躍を目指す玉野職人塾」 船守利幸氏 (財)玉野産業振興公社 常務理事</p> <p>「奉還町商店街の生き残りをかけて！」 岸 卓志氏 奉還町振興組合理事長</p> <p>「津山ホルモンうどん&B級グルメフェスタの成功」 沼 泰弘氏 つやまホルモンうどん研究会 (津山市総合企画部 秘書広報室)</p> <p>「懐かしいまち 倉敷を住み直す」 中村泰典氏 NPO 法人倉敷町家トラスト代表理事</p>
---	--

大会終了後、会場を岡大生協南福利施設ピーチユニオンに移し、最大のイベントでもある交流会が行われ、参加者相互の懇親が大いに深められました。INS 千葉正克氏、KNS 堂野智史氏から感謝の言葉が述べられた後、曾良達生実行委員長の乾杯の音頭で交流会が始まりました。

会場には地元企業のご厚意による岡山県の地酒コーナーおよび食材サンプルが提供されたほか、岡山大学農場で収穫されたピオーネ、マスカット等に加え、岡山名物「祭り寿司」を味わって頂きながら、情報と元気を交換して頂きました。



途中、INS メンバーから森岡さんさ踊り和太鼓演奏、参加者インタビューなどが行われ、大いに盛り上がりました。



尚、第5回全国大会(2011年)は北海道江別市で開催されることが報告され、賑やかなうちに中締めを迎えました。